

2016 年度活動報告 日本語教育基礎・日本語教育基礎演習

藤原 由紀子（関西学院大学日本語教育センター）

1. 授業の目的

本科目は、グローバルスタディーズ科目¹⁾として日本語教育センターが開講するものである。そこで、日本語教育基礎では、日本語を外国語として捉え直したり、初級学習者向けの活動を考えて実施するといった体験²⁾を通して、学習者の視点に立つと、日本語や日本語によるコミュニケーションがどのように見えるかについて考察を重ねることで、日本語教育についての基礎的な知識を学ぶとともに、多文化共生社会における自己のあり方について考えることを目標とした。日本語教育基礎演習では、日本語教育基礎で学んだことを踏まえ、実際に教案作成や模擬授業を行い、将来、国内の地域日本語教室や留学先の日本語授業などで、TA やボランティアとして活躍できるような、より実践的な日本語教育能力の養成を目指した。

2. 授業内容

日本語教育基礎では講義とグループでのディスカッションを平行して行い、学生が自分自身で考え、気づきを得ることができるよう工夫した。そして、毎回講義後には、その気づきを記すコメントシートを課し、教員のコメントとともに返却した。それらを日本語学習活動の実施体験などとともに、最終レポートにまとめることで、考察を深められるようにした。日本語教育基礎演習では、初級教材の分析や例文の検討などを行った上で、グループ、および個人で模擬授業を3度実施した。

3. 成果と今後の課題

レポートには、日本語を外国語として見た時に見えてくる言語の規則やそれを無意識に使いこなしている自分に対する率直な驚き、やさしい日本語で話すことの難しさなどが語られており、本授業で多くの気づきを得ていることがわかった。履修者は、身近な日本語学習者の質問に答えられるようになりたいという者から、実際に国際社会貢献活動で海外の教壇に立つ者まで様々だが、日本語教育の基礎力とともに、それぞれが多文化共生社会における自己のあり方について考える場を提供できるよう、今後も授業を改善していきたい。

1) 多文化共生社会の実現に貢献する世界市民となるために、異文化への理解を深めるとともに、グローバルな視点でものを見つめることのできる力を身につけ、日本人としてのアイデンティティーの確率をサポートするという目的で設置されている全学科目。

2) 初級学習者のための日本語学習活動を考える活動は、日本語教育基礎演習で行っていたものを、今年度秋学期から日本語教育基礎で行うことにした。